

ワケネギ「東京小町」の栽培について

1. 特徴

- ① 『東京小町』は、春・秋の品質は良いが夏に葉が細く淡くなりやすい『在来系統』の改良を目指し、夏季の品質が良い『夏用系統』を交配し、選抜した品種です。
- ② 夏季に細くならず葉色は濃く、葉が厚く葉折れしにくい品種です（図1）。また、抽苔（ネギ坊主）の発生が少ないため、5月から6月の出荷も可能です（図2）。
- ③ 『東京小町』1系統による周年栽培が可能となり、数系統を維持する手間やコストを減らせます。



図1 「東京小町」の調整株

図2 「東京小町」の作型表

月旬	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
春植え	■	■	■	○	○	○	○	○	○	○	○	○
夏植え	○	○	○	■	■	○	○	○	○	○	○	○
秋冬植え	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

（○：定植、■：収穫適期、▨：収穫期）

注）栽培期間中は防虫ネットによるトンネル栽培を推奨します（図6，7参照）。

2. 栽培方法

① 施肥量

- ① 10aあたりの成分量で、窒素-リン酸-カリを20-24-20kgを目安に増減します。
- ② 有機質肥料や緩行性肥料の場合は全量基肥として施用します。

② 定植

- ① 9220または9215のマルチを使用。
- ② 冬は銀黒か黒、それ以外の時期は白黒マルチ。
- ③ 定植苗は、苗長が10cm程度になるように葉身を切り揃えます。
- ④ 深さ7～8cmの穴をあけ、1株2本または1本の苗を定植します。



図3 「東京小町」の露地マルチ栽培

③ 収穫

- ① 1株が20～25本に分げつした頃が収穫適期です（図4）。
- ② 細くなりやすく葉折れしにくいため、これまでの品種よりも在圃性が高く、出荷時期を調整できます（図2）。
- ③ 収穫時は、葉を折らないように株ごと抜き取ります。



図4 収穫適期の「東京小町」

3. 出荷調整

- ① 収穫物を1本ずつに丁寧に分けます。
- ② 葉を3～4枚程度残して、薄皮をむきます（図1）。
- ③ 発根しないように根を切りますが、盤茎は残します（図5）。
- ④ 根を切るときに盤茎まで切除すると、その後葉鞘部の中心が下に伸長し飛び出すため品質を損ないます。
- ⑤ 鮮度保持袋に入れて出荷します。



図5 盤茎部分

4. 病害虫防除

- ① 農薬の登録分類は「ネギ」（「ワケギ」ではない）となっていますので注意してください。
- ② アザミウマおよびハモグリバエ、シロイチモジヨトウ防除のため、春～夏季はこまめな薬剤散布が必要です。
- ③ UVカットフィルムを展張したハウス栽培、防虫ネット（0.6mm以下のネットまたは目合い0.8mm以下の赤色ネット）によるトンネル栽培を推奨しています（図6、7）。

5. その他

- ① 冬季の露地栽培は、葉先の枯れこみが発生することがあるため、ハウス栽培もしくは12月頃トンネル被覆を行い、保温することが効果的です。



図6 赤色防虫ネットによるトンネル栽培



図7 防虫ネットによるトンネル栽培